

青い森鉄道線「目時・八戸間」及び並行在来線「八戸・青森間」への財政支援について

【提案・意見内容】

J Rから経営分離された本県の並行在来線は、地域住民の日常生活に欠くことのできない貴重な足であると同時に、国家的な物流の幹線として極めて重要な役割を担っていることから、これを維持していくための支援措置等を講じる必要があります。

【本県の現状と課題】

青い森鉄道線目時・八戸間は、わずか25.9kmの経営区間でありながら、実質的な赤字額が年間3億円を超えるなど極めて厳しい経営状況にあり、今後、新幹線新青森駅開業時には、青い森鉄道線は現在の約5倍の距離に延伸されることから、毎年度多額の県費負担が発生することが想定されます。また、延伸される区間の鉄道資産の購入などの初期投資にも、現時点で200億円を大幅に超える多額の地元負担が見込まれています。

一方で、本県の並行在来線区間は、一日約40本もの貨物列車が走行する北海道と首都圏とを結ぶ、我が国の物流政策上、極めて重要な路線であるため、旅客鉄道の輸送量が必要とする水準をはるかに超えた規模の鉄道施設を、県が保有・管理せざるを得ない状況となっています。

つきましては、私どもの並行在来線が将来にわたり安定的な経営を維持できますよう、以下の事項について要望いたします。

記

- 1 並行在来線維持のための県費負担に係る一定の助成措置を講ずること (特別交付税等)
- 2 現行補助制度の対象事業者及び対象事業を拡充すること (災害復旧事業費補助金等)
- 3 線路使用料における対象経費を見直しすること (資本費の対象経費算入等)
- 4 新たな経営分離区間に係る資産取得等初期投資に対する更なる助成措置等を講ずること (初期投資軽減への協力等)

平成19年6月14日

青森県知事 三村 申吾